

令和5年度 研究集録の刊行に寄せて

岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会長

(岩手県立釜石祥雲支援学校長)

外 館 悌

令和5年5月、3年以上にわたり、社会全体に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症の感染症上分類が5類に移行となりました。5類移行後の学校教育活動の在り方については、文部科学省より「単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させるとともに、GIGA スクール構想の下で生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れることにより、いわば新しい学びの在り方への進化を図っていくことが重要」と示され、今年度は、各校においても、教育活動の精選・重点化と「新しい学びの在り方への進化」という視点から、学校教育活動を推進してきたことと思います。

そして、「新しい学びの在り方への進化」に位置付けられる「デジタル技術を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現」、「児童生徒が多様な他者と交流する豊かな体験活動の充実」を具現化していくためには、教員自身に教職生活を通じて主体的に学び続ける「新たな学びの姿」が期待されていることは言うまでもありません。

さて、こうした背景の下、今年度も各校におかれましては、学校ごとのニーズを踏まえた校内研究の推進、新たな知見に触れるための講演会開催など、研修の充実に努めてきていただきました。今回、刊行となります研究集録第51号には、今年度の各校における研究実践とその成果がまとめられています。すでに半世紀以上に渡って刊行されてきている本研究集録が、会員、そして、特別支援教育に携わる方々にとって、互いに学び続ける教員としての専門性向上の一助になれば幸いです。

なお、本部会の事務局につきましては、令和3年度より3年間、釜石祥雲支援学校が担当させていただき、今年度が最終年となります。これまでの会員の皆様の本部会運営への御協力に感謝申し上げます、研究集録刊行の御挨拶とさせていただきます。